



LifeSize® ビデオ通信システム
ユーザーガイド



August 2007
Part Number 132-00057-001 Revision 02

Copyright Notice

©2005 - 2007 LifeSize Communications Inc, and its licensors. All rights reserved.

LifeSize Communications has made every effort to ensure that the information contained in this document is accurate and reliable, but assumes no responsibility for errors or omissions. Information in this document is subject to change without notice. Companies, names, and data used in examples herein are fictitious unless noted. This document contains copyrighted and proprietary information, which is protected by United States copyright laws and international treaty provisions. No part of the document may be reproduced or transmitted, in any form or by any means, electronic or mechanical, for any purpose, without the express written permission from LifeSize Communications.

Trademark Acknowledgments

LifeSize® is the trademark of LifeSize Communications Inc. All other trademarks are the property of their respective owners.

Patent Notice

For patents covering LifeSize® products, refer to <http://www.lifesize.com/support/legal>.

Contacting Customer Support

If you have questions, concerns, or need assistance, contact your LifeSize Channel Partner.

Providing Customer Feedback

LifeSize Communications welcomes your comments regarding our products and services. If you have feedback about this or any LifeSize product, please send it to feedback@lifesize.com. Contact information for LifeSize Communications is as follows:

<i>Method</i>	<i>Address</i>
Internet	http://www.lifesize.com
E-mail	support@lifesize.com
Phone	(877) LIFESIZE or (877) 543-3749 (512) 347-9300
Fax	(512) 347-9301

LifeSize ビデオ通信システムへようこそ

LifeSize は、遠距離各地に分散している相手との共同作業をより明確にかつ効率的に行うための高精度ビデオ通信システムです。従来のビデオ通信とは異なり、生産性の高さ、使いやすさ、信頼性を兼ね備えた優れたデザインを採用しています。

本書では LifeSize ビデオ通信システムの使用方法について説明します。本製品に関連するマニュアルは、製品に同梱されているマニュアル CD に収録されているほか、www.lifesize.com のサポートページでもご利用いただけます。現在のリリースに関する情報や技術ノート、技術参考文献も www.lifesize.com のサポートページからダウンロードできます。

システム コンポーネント

LifeSize ビデオ通信システムを使用する前に、各コンポーネントについて正しく理解してください。

LifeSize カメラ

こちら側のビデオ会議参加者とオブジェクトは、LifeSize ビデオ通信システムと同じ部屋に位置しています。相手側の参加者とオブジェクトは、リモートの場所に存在することを意味します。カメラはこちら側のビデオをキャプチャし、相手側の会議参加者へ送信します。



注: LifeSize Room には、カメラを 2 台接続することができます。ただし、アクティブにできるのは一度に 1 台のカメラに限られます。

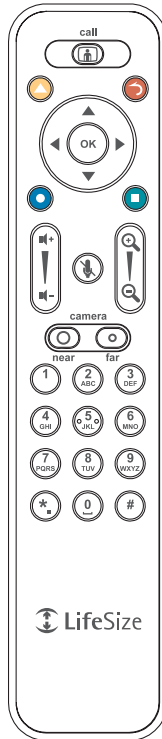
LifeSize Phone

LifeSize Phone の高音質の音声会議スピーカーフォンは LifeSize ビデオ通信システムと完全に統合でき、ビデオシステムのマイクとしても使用できます。LifeSize Phone は、ローカルサウンドをキャプチャするための循環型配列のマイク 16 個を提供します。また、LifeSize Phone を使用して通話を開始したり、切断したりすることもできます。



LifeSize リモート コントロール

LifeSize リモート コントロールは、すべての LifeSize ビデオ通信システムの無線コントロールを提供し、ユーザー インターフェイスを使用して電話をかけたり、受信したり、カメラをコントロールしたりできます。



リモート コントロールの赤外線 (IR) センサーは、カメラの前部にあります。リモート コントロールを使用する場合は、カメラの 10 メートル以内で使用してください。

LifeSize コーデック

LifeSize コーデックは、送信するビデオ、音声、データを圧縮して相手側に転送するほか、受信情報の圧縮を解除します。システムにコーデックが正常にインストールされた後では、特別な操作は必要ありません。



サードパーティ製ディスプレイ

LifeSize コーデックにサードパーティ製ディスプレイを接続すると、ユーザーインターフェイスを使用してビデオ通話中のビデオ画像を見ることができます。LifeSize Room には、ディスプレイを 2 台接続することができます。

ユーザー インターフェイスのナビゲート

LifeSize システムがアイドル状態の場合は、スクリーンセーバーが表示されるか、黒い画面が表示されます。着信コールまたはリモート コントロールのいずれかのボタンを押すと、システムが自動的にアクティブになります。

注： 管理者は、電話室で使用するよう LifeSize システムを設定できます。電話室は、会議のホストがコントロール パネルから通話を制御したり、ユーザーが接続された電話を使用してシステムを操作したりする場所です。LifeSize システムでプレゼンテーション機能がオンになっていて、システムがアイドル状態のときは管理者のみがユーザー インターフェイスにアクセスできます。会議中にユーザー インターフェイスを使用して実行できる操作は次の通りです。

- リモート コントロールの数字キーの動作をタッチトーンからプリセットに変更。22 ページの「通話中にカメラのプリセットを使用する」を参照してください。
- 通話統計の表示。25 ページの「通話統計の表示」を参照してください。
- リモート コントロールの【こちら側】と【相手側】キーでビデオ入力を選択。11 ページの「こちら側のカメラの操作」と 21 ページの「相手側のカメラの操作」を参照してください。

メイン画面










ユーザー インターフェイスには、すべてのユーザーが使用できる機能と、パスワードを持つ管理者のみが使用できる設定や機能の両方が含まれています。

メイン画面は、3つのセクションから構成されています。







- 画面の上部には、システムの情報が表示されます（システム名や電話番号など）。通話中は、この情報は表示されません。システムに接続されたアクティブなカメラからのビデオ画像は、システム情報の下にある小さなウィンドウ内に表示されます。
- スクリーンの中央には【再ダイヤル】リストおよび【音声通話】、【ビデオ通話】ボタンがあります。【再ダイヤル】リストでは、最近使用した番号のリストから番号を選択して電話をかけることができます。【音声通話】および【ビデオ通話】ボタンでは、番号を手動でダイヤルします。

- スクリーン下部には、システムのステータス バーおよびナビゲーション バーがあります。システム ステータス バーには、音声通話やビデオ通話の数、時刻と日付、進行中の通話時間などを含むシステムとネットワークのステータスが表示されます。システムの起動中には、【再ダイヤル】リストの上部に現在の状態を示すステータスが表示されます。次の表に、システムのステータス バーで表示されるアイコンを示します。

アイコン	状態
ビデオ 	進行中のビデオ通話の数を示します。ビデオアイコンの右側に表示されるオレンジの各アイコンは、進行中のビデオ通話を示します。
音声 	進行中の音声通話の数を示します。音声アイコンの右側に表示されるオレンジの各アイコンは、進行中の音声通話を示します。
 1	指定したカメラの照明が低いことを示します。この例では、黄色いアイコンの横に表示される番号 1 によって、LifeSize コーデックのカメラ 1 ポートに接続されているカメラで、照明が低い状態が発生していることを意味します。詳しくは、32 ページの「部屋の明るさの調整」および 33 ページの「カメラの明るさの調整」を参照してください。
 1	指定したカメラの照明が非常に低い状態を示します。この例では、赤いアイコンの横に表示される番号 1 によって、LifeSize コーデックのカメラ 1 ポートに接続されているカメラで、照明が非常に低い状態が発生していることを意味します。詳しくは、32 ページの「部屋の明るさの調整」および 33 ページの「カメラの明るさの調整」を参照してください。
	音声サブシステムが初期化中であることを示します。システムの起動後にこのアイコンが表示される場合は、問題が発生しており、システムの再起動が必要であることを示します。
	通信サブシステムが初期化中であることを示します。システムの起動後にこのアイコンが再表示される場合は、問題が発生していることを示します。システムを再起動する。
	ユーザー インターフェイスが初期化中であることを示します。ユーザー インターフェイスの初期化中は、メイン画面の機能は無効になり、再ダイヤルのリストには何も表示されません。このアイコンはシステム再起動後に新しいデバイスがシステムに接続された場合にも表示され、デバイスの準備が完了すると消えます。


アイコン	状態
ネットワークステータス	<p>次のいずれかでネットワークのステータスを示します。</p> <p>接続  (緑のインジケータ)</p> <p>進行中  (黄色のインジケータ)</p> <p>切断  (赤のインジケータ)</p>
システムの過熱	<p>この黄色のインジケータは、システムの温度が許容する最大動作温度に近づいていることを示す警告です。この温度を超えると、システムは自動的に再起動されます。 </p> <p>この赤のアイコンは、システムの温度が許可されている最大動作温度を超えたことを示します。温度が許容温度まで直ちに下がらない限り、10秒後にシステムが自動的に再起動されます。 </p>
SIP サーバーの登録状態	<p>電話をかけるためのプロトコルとして SIP が設定されている場合、このインジケータは SIP サーバーに対する LifeSize システムの登録状態を次のように示します。</p> <p>進行中  (黄色のインジケータ)</p> <p>登録に失敗  (赤のインジケータ)</p> <p>SIP 登録に失敗したことを示すインジケータが表示された場合は、システム管理者までお問い合わせください。</p>
H.323 ゲートキーパーの登録状態	<p>H.323 ゲートキーパーに対する LifeSize システムの登録状態を次のように示します。</p> <p>進行中  (黄色のインジケータ)</p> <p>登録に失敗  (赤のインジケータ)</p> <p>H.323 の登録に失敗したことを示すインジケータが表示された場合は、システム管理者までお問い合わせください。</p>

ナビゲーションバーはシステムステータスバーの下に表示され、リモートコントロールのボタンに該当するアイコンや機能などが含まれています。アイコンや機能は、システムの使い方によって異なります。次の表に、ナビゲーションバーによく表示されるリモートコントロールのボタンとそれに関連する機能を示します。

リモートコントロールのボタン	機能
通話 	新しい通話を開始するため、メイン画面に戻ります。 また、通話中の場合は、通話画面に戻ります。
   	これらのボタンは画面に示されている機能に対応しており、機能はシステムの使い方によって変わります。
矢印キー	左右の矢印キーは、選択した設定値の増減に使用します。
OK	Enter キーとして機能します。
	複数のページリストでは、上下のページに移動します。また、選択した設定値の増減にも使用します。
キーパッド	文字を入力するための英数字キーパッドです。 また、表内でエントリのリストもナビゲートできます。各数字キー（1-9）は、10% 単位での増減を示します。

リモートコントロールの矢印キーを使って、メイン画面を操作します。画面の各部分をナビゲートするとナビゲーションバーに表示されるアイコンとその説明が切り替わり、選択されたオブジェクトや画面でどの操作が利用可能かを示します。

システム メニュー

メイン画面から【システム メニュー】にアクセスするには、リモート コントロールの  ボタンを押します。【システム メニュー】からは、次の操作を実行できます。

- **LifeSize** システムについて、選択された設定とステータス情報の表示。
- 次の操作を実行できる【ユーザー設定】を開きます。
 - 使用言語や背景画像、スクリーンセーバー、通話が確立した後のユーザー インターフェイスの表示時間などの設定を変更します。**LifeSize Room** では、2 台目のディスプレイに表示するコンテンツを選択できます。
 - システムが通話に応答する方法を選択します。詳しくは、18 ページの「電話への応答、無視、拒否」を参照してください。
 - システムに接続された音声入力/出力デバイスの設定を調整します。詳しくは、20 ページの「音声の管理」を参照してください。
 - 診断ツールにアクセスしてカメラの設定やVGA入力を調整し、システムを再起動します。詳しくは、32 ページの「トラブルシューティング」を参照してください。


注: これらの設定へのアクセスには、管理者がパスワードを設定している場合があります。


カメラの操作

ビデオ通話を始める前に、システムに接続されたカメラの操作方法について正しく理解しておいてください。相手側のユーザーが通話中にこちら側のカメラを操作できないようにするには、システム管理者にお問い合わせください。

こちら側のカメラの操作

システムがアイドル状態の時にこちら側のカメラを操作するには、リモート コントロールの【こちら側】ボタンを押してカメラを選択します。カメラの角度を調節するには、リモート コントロールにある次のボタンを使用します。

リモート コントロールのボタン	機能
	左右の矢印キーはカメラをパンします。 上下の矢印キーはカメラをチルトします。

リモート コントロールの ボタン	機能
	ズーム インおよびズーム アウト キーは、カメラをズームします。

LifeSize Room システムで2台のカメラを使用する場合は、両方のカメラがシステムに接続されていても、アクティブな状態でビデオ画像をキャプチャできるカメラは一度に1台に限られます。アクティブなカメラを指定するには、22 ページの「入力の選択」を参照してください。【主入力】および【副入力】選択画面では、非アクティブなカメラはグレーの選択ボックス内にカメラ アイコンとして表示されます。アクティブなカメラは、ビデオ画像とともに選択ボックスとして表示されます。

アクティブなカメラの青い LED は、システムが使用中の場合に明るく点灯します。アクティブでないカメラの青い LED は暗く点灯します。アクティブなカメラを取り外すと、自動的にアクティブでなかったもう一方のカメラがアクティブになります。取り外したカメラを再度接続しても、アクティブなカメラの選択は変わりません。

カメラ プリセットの設定

カメラのプリセットは、リモート コントロールの数字キーに関連付けられている、事前に定義したカメラ位置です。カメラのプリセットを使用すると、リモート コントロールで矢印キーやズーム キーを使用する代わりに、キーを1つ押すだけで会議中にこちら側と相手側のカメラの位置をすばやく変更することができます。相手側の参加者は、複数のキーでカメラの位置を調整する場合に起こる遅延なしにビデオ画像を見ることができます。

プリセットは、通話前または通話中どのビデオ画面からでも【主入力】と【副入力】画面で設定できます。通話中にプリセットを設定および使用するには、まず【通話マネージャ】画面から【プリセット】を選択します。通話中にプリセットを使用する操作について詳しくは、22 ページの「通話中にカメラのプリセットを使用する」を参照してください。

最高9つのプリセットを保存できます。プリセットが使用可能になっている場合は、ユーザー インターフェイスのナビゲーション バーに数字キー (0 ~ 9) のアイコンと「プリセット」というテキストが表示されます。

通話前にプリセットを設定することで、通話中にこちら側のカメラ位置をすばやく変更することができるようになります。通話前にこちら側のカメラのプリセットを設定するには、次の手順に従います。

1. こちら側のカメラを選択し、カメラ位置を調整します。11 ページの「こちら側のカメラの操作」を参照してください。
2. ビープ音が鳴るまで、リモート コントロールの数字キー（1～9）を押し続けます。現在のカメラ位置に、数字キーが関連付けられます。プリセット **x**（**x**は、プリセットに関連付けられた数字キー）が保存され、ステータスバーの上部に表示されます。

既にプリセットに設定されている数字キーを選択した場合は、以前の設定が上書きされます。管理者は、設定が誤って上書されないよう現在の設定をロックすることができます。数字キーに関連付けられている既存のプリセットがロックされている場合は、「プリセット **x** ロック済み」というメッセージが画面に表示されます。プリセットとして使用する場合の **0** キーは、選択したカメラを常にデフォルト位置に戻します。このプリセットは上書きできません。LifeSize Room に接続されている 2 台目のカメラに関連付けられているプリセットを使用すると、2 台目のカメラの位置が変更され、このカメラがアクティブになります。

3. プリセットをテストするには、矢印キーを使用してカメラを別の位置に移動させ、プリセットに関連付けられた数字キーを押してカメラをプリセット位置へ移動させます。プリセット **x**（**x**は、プリセットに関連付けられた数字キー）がステータスバーの上部に表示されます。

こちら側のカメラのビデオ品質管理

通話を始める前に、LifeSize システムに接続されたカメラから、こちら側のビデオ画像をチェックします。画像がちらちらする場合や、色調がアンバランスな場合、画像が暗すぎる場合は、部屋の照明やカメラの設定を調整します。詳しくは、32 ページの「部屋の明るさの調整」および 32 ページの「カメラの問題」を参照してください。



電話をかける

LifeSize システムを使用してビデオ電話または音声電話をかけるには、次の手順に従います。

- メイン画面の【再ダイヤル】のリストまたはディレクトリに保存された電話番号を選択します。
- 次のコントロールを使用して、手動で番号をダイヤルします。
 - メイン画面の【ビデオ通話】または【音声通話】ボタン
 - システムに接続されている場合は、LifeSize Phone の【ビデオ】または【音声】キー

再ダイヤルのリストから電話をかける

メイン画面の【再ダイヤル】のリストには、最大 **15** 件の電話番号が保存されます。選択できるエントリが **5** 件以上ある場合は、スクロールバーが表示されます。保存できる最大件数に達すると、リスト内の電話番号は、システムが新しい通話を受信するたびに古い順に削除されます。

最後の通話は、常にリストの一番上に表示されます。エントリには、電話をかけた人物の名前と、音声通話  かビデオ通話  を示すアイコンが表示されます。エントリの番号（およびビデオ通話の場合は帯域幅）はリストの一番下に表示されます。

【再ダイヤル】リストから電話をかける場合は、リモートコントロールの矢印キーを使用してエントリを選択し、**[OK]** をクリックします。

【再ダイヤル】リストからビデオ通話を開始する前に帯域幅を変更する場合は、メイン画面の【ビデオ通話】を選択してから **[OK]** キーを **2** 度押し、右矢印キーを使ってリストから使用する帯域幅を選択します。帯域幅を **[自動]** 以外の設定に変更します。

注： 電話をかける前に【ビデオ通話】で **[自動]** を選択しても、最後に使用した帯域幅として **[自動]** が選択されていない【再ダイヤル】リストエントリの帯域幅が変更されることはありません。


【再ダイヤル】リストに表示される最大エントリ数を変更するには、ユーザー設定の【再ダイヤル】設定を調整します。通話また、エントリを【再ダイヤル】リストからローカルのディレクトリへ追加して手動でエントリを削除したり、リスト内で保存できる最大件数に達した場合に削除されるのを防ぐためにロックしたりすることもできます。詳しくは、**27** ページの「再ダイヤルリストの管理」を参照してください。

ディレクトリからのダイヤル

ディレクトリには、電話をかける相手の名前と番号のリストが保存されます。ディレクトリは、ローカル、企業、会議の **3** つのサブディレクトリに分かれています。ローカルと企業ディレクトリのエントリには、単一デバイスへのダイヤル情報が含まれます。会議ディレクトリのエントリには、複数のデバイスへのダイヤル情報が含まれます。会議ディレクトリ内のエントリを選択すると、システムはエントリに含まれるすべてのデバイスに電話をかけます。


ローカルと会議ディレクトリのエントリはシステム内に保存され、変更することもできません。企業ディレクトリは読み取り専用で、システム管理者によって管理されます。

ディレクトリから電話をかけるには、次の手順に従います。


1. メイン画面から、リモートコントロールの  ボタンを押してディレクトリを開きます。

-
2. 矢印キーを使用して【ローカル】、【企業】または【会議】ディレクトリを選択し、【OK】を押します。

3. リモート コントロールの矢印キーを使用して、ダイヤルする番号を選択します。

ディレクトリはアルファベット形式または階層形式でブラウズできます。アルファベット形式ではエントリーはアルファベット順に表示され、【参照】欄のアルファベット群を選択してすばやくエントリーにナビゲートできます。階層形式では、エントリーは事前に定義されたコンピュータのフォルダやディレクトリ構造に似た組織単位で表示されます。エントリーを作成した場合は、エントリーを編集する際に【階層】フィールドを編集すると、いつでも階層形式のディレクトリに追加できます。階層を作成する手順について詳しくは、28 ページの「ディレクトリの管理」を参照してください。階層形式を使用すると、【参照】欄から階層を選択することでエントリーを検索できます。【参照】で階層を1つ下に移動するには、【OK】を押します。1つ上に移動するには、 ボタンを押します。

4. リモート コントロールで【OK】を押して、電話をかけます。

注：ローカルまたは企業ディレクトリのエントリーに1つまたは複数の番号が含まれている場合は、【番号】欄に  のシンボルが表示されます。【OK】を押して、表示されたメニューから電話をかける番号を選択します。【OK】を押して、電話をかけます。

ディレクトリ内の番号を追加、削除、編集することもできます。詳しくは、28 ページの「ディレクトリの管理」を参照してください。


メイン画面から手動で番号をダイヤル

リモート コントロールを使用してビデオまたは音声通話の番号を手動でダイヤルするには、メイン画面の【ビデオ通話】と【音声通話】のオプションを使用します。



手動でビデオ通話番号をダイヤル

メイン画面から手動でビデオ通話の番号をダイヤルするには、次の手順に従います。


1. リモート コントロールの矢印キーを使用して【ビデオ通話】を選択し、【OK】を押します。
2. 相手の電話番号を入力します。デフォルトで、最後に入力した番号が表示されます。番号を編集するには、次のキーを使用します。

-  ボタンは、テキスト入力方法を切り替えます（画面の下にあります）。

注： **0x1a** オプションを使用すると、LifeSize システムが IPv6 ネットワークに接続されている場合に IPv6 アドレスを入力できます。LifeSize システムで IPv6 アドレス機能が使用可能になっていると、システムの IPv6 アドレスが【システムメニュー】の【システム情報】に表示されます。IPv6 アドレスを入力する場合は、電話をかける相手のシステムも IPv6 機能をサポートしている必要があります。





-  ボタンは、バックスペースとして機能します。
-  ボタンは、英数字を入力できるキーボードを表示します。矢印キーを使って入力する文字に移動し、**[OK]** を押します。

[OK] を押して、フィールドを閉じます。

3. オプション: 番号のエントリ ボックスの横に表示されるリストへナビゲートし、通話のための最大帯域幅の値を選択します。**[OK]** を押してリストにアクセスし、矢印キーを使って値を選択してからもう一度 **[OK]** を押すと、選択した値が保存されます。
4. 【通話】ボタン  を押して、番号をダイヤルします。

手動で音声番号をダイヤル

メイン画面から手動で音声番号をダイヤルするには、次の手順に従います。

1. リモート コントロールの矢印キーを使用して【音声通話】を選択し、**[OK]** を押します。
2. 相手の電話番号を入力します。デフォルトで、このフィールドには最後に入力した番号が表示されます。番号を編集するには、次のキーを使用します。
 -  ボタンは、テキスト入力方法を切り替えます（画面の下にあります）。
 -  ボタンは、バックスペースとして機能します。
 -  ボタンは、英数字を入力できるキーボードを表示します。矢印キーを使って入力する文字に移動し、**[OK]** を押します。
3. 【通話】 を押して、電話をかけます。

LifeSize Phone を使用して番号を手動でダイヤルする

LifeSize ビデオ通信システムに LifeSize Phone が接続されている場合は、電話キーパッドのキーを使用して音声またはビデオ通話を手動でダイヤルできます。電話をかけるには、【音声】または【ビデオ】キーを押し、数字キーで番号を入力します。


LifeSize Phone の【音声】ボタンを使って電話をかける際に音声ダイヤルがタッチトーンかパルスに設定されている場合は、PSTN 接続を使ってのみ電話をかけることができます。音声ダイヤルが VoIP に設定されている場合は、IP アドレスまたは電話番号をダイヤルできます。

リモート コントロールまたは LifeSize Phone の【ビデオ】ボタンを使用してビデオ電話をかける場合は、電話番号または IP アドレスのいずれかをダイヤルできます。これにより、企業ネットワーク内のシステムがゲートウェイにアクセスすることなく、システム IP アドレスを使って、ネットワーク内にあるほかの LifeSize Phone に電話をかけることができます。

複数のサイトを通話に含める方法

自分のシステムで電話会議をホストする場合（すべての通話が自分のシステムに接続されている場合）は、進行中の通話に参加者をシステムで設定されている最大人数までいつでも追加できます。最初の通話を接続を試みている間に、接続の完了を待たずに 2 人目の相手を追加できます。

進行中の通話に参加者を追加するには、次の手順に従います。

1. 通話中に、 ボタンを押して、新しい参加者を追加するメイン画面に戻ります。
2. 次のいずれかを実行します。
 - 【再ダイヤル】リストから番号を選択し、**[OK]** を押します。【再ダイヤル】リストにある現在進行中の音声またはビデオ電話番号の左に、オレンジの LED インジケータが表示されます。
 - ディレクトリから番号を選択します。14 ページの「ディレクトリからのダイヤル」を参照してください。
 - 【音声通話】または【ビデオ通話】を使用して手動でダイヤルします。15 ページの「メイン画面から手動で番号をダイヤル」を参照してください。
 - 電話のキーパッドで【追加】キーを押して、新しい電話番号を入力することもできます。通話のタイプによって電話キーパッドの【音声】キーまたは【ビデオ】キーを押します。

注： PSTN 接続を使って通話を接続する場合は、リモート コントローラを使って参加者を追加する必要があります。

電話への応答、無視、拒否

【ユーザー設定】で、着信コールに対してシステムが自動応答するよう設定を行うことができます。以下の手順に従います。


- 【自動応答】を【有効】に設定すると、システムは最初の着信に対し自動的に応答します。【無効】（デフォルト）に設定した場合は、受信した通話には手動で応答する必要があります。
- 【自動応答時ミュート】を【有効】（デフォルト）、【自動応答】設定も【有効】に設定すると、通話が確立した時点でシステムがミュートされます。
- 【自動応答（多地点通話）】を【有効】（デフォルト）に設定すると、最初の通話が確立した後の着信に対して自動的に応答します。新しい通話が接続されると、ブープ音が鳴ります。

通話に手動で応答するよう設定している場合は、着信時のオプションを次の中から選択します。

- 電話に応答するには、【応答】を選択し、【OK】を押します。
- 電話を無視するには、【無視】を選択し、【OK】を押します。

別の電話に対応しているときに、電話がかかってくる、【自動応答（多地点通話）】が【無効】に設定されている場合は、【操作不可】を選択できます。これは、ほかの電話によって通話中の電話が中断されないように、新しくかかってきた電話を無視します。電話をかけた相手にはビジー状態の信号音が聞こえます。

【自動応答（多地点通話）】が【有効】に設定されている場合、システムが最初の通話を接続した後に音声通話に応答すると【新しい通話】ダイアログが表示されます。ダイアログには、追加された音声発信元の名前と番号が表示されます。【切断】を選択し、【OK】を押して通話を終了します。ダイアログを無視すると、システムは電話に応答します。

システムが電話を受信しても応答しないでいると、その着信は【再ダイヤル】リストに不在着信履歴として表示され、のマークがエントリ名の横に表示されます。

通話の管理

通話中に、通話のステータスに関する情報や発信元の ID 情報を表示することができます。また、音声出力やビデオ画像を管理したり、カメラを操作したり、画面で表示する入力を選択できるほか、プレゼンテーションも開始することができます。

通話ステータス

LifeSize システムを使用して電話をかける場合、【通話ステータス】ダイアログが表示されます。【通話ステータス】には、番号や相手の IP アドレス、通話ステータス（例：ダイヤル中、呼び出し中、接続中、応答中または不在など）が表示されます。

発信元 ID


ビデオ通話で相手側のシステムが電話に応答すると、相手側のビデオ画像がディスプレイに表示されます。相手側のビデオ画像の左上には、相手側の発信元 ID（電話番号または IP アドレス）が表示されます。次のアイコンのうち 1 つまたは複数が発信元 ID の横に表示され、通話に関する情報を示します。

アイコン	説明
	ビデオ通話
	音声通話
	こちら側のシステムのマイクはミュートされます。
	相手側のシステムのマイクはミュートされます。
 	暗号化されている音声通話。 注：通話ステータスには、通話マネージャ リスト、通話の統計リストとともに次のアイコンが表示されます。
 	暗号化されているビデオ通話。 注：通話ステータスには、通話マネージャ リスト、通話の統計リストとともに次のアイコンが表示されます。

PIP の管理


ディスプレイには、相手側とこちら側のビデオ会議サイトのほか、メニューや接続されているビデオソースからのビデオ画像も表示されます。

ピクチャインピクチャ (PIP) は、メイン画面の隅に表示される小さなウィンドウです。これは、メイン画面の上に表示され、デフォルトで常に主 (こちら側) 入力 of 画像を表示します。ユーザー設定を調整することにより、デフォルトでの PIP の表示 / 非表示を設定できます。【外観】:【ピクチャインピクチャ】設定 主入力を変更するには、22 ページの「入力の選択」を参照してください。

【通話】 ボタンを通話中に押すと、相手側とこちら側の別の画面表示にアクセスできます。選択された画面表示の数 (x) と使用できる画面表示の合計数 (y) がステータスバー上部の画面中央に x/y と表示されます。続けて【通話】ボタンを押すと、利用できるすべての画面表示が表示されます。プレゼンテーションを送信中または受信中にシングルまたはデュアル モニタ構成で画面表示を変更することもできます。プレゼンテーションについて詳しくは、24 ページの「プレゼンテーションの開始」を参照してください。

注: 【通話】ボタンを使用して相手側とこちら側のビデオ画像の新しい画面表示を選択するには、こちら側のカメラを操作する必要があります。

ユーザー インターフェイスを隠す


デフォルトでは、システム情報、ステータスバー、ナビゲーションバーは通話が確立して 10 秒後にフェードアウトするよう設定されています。システムを操作すると、この間隔はリセットされます。このようなユーザー インターフェイスを通話中に表示または非表示にするには、 ボタンを押します。

フェードアウトの間隔を調整するには、ユーザー設定の【フェードアウトの時間切れ】:【外観】から行います。




音声の管理

通話中に音量を調整したり、マイクをミュートしたりすることができます。

音量の調整

通話の音量を調整するには、リモート コントロールまたは電話にある  ボタンを使用します。また、ユーザー設定の【音声】でその他の入力の音量や、出力のトレブルや低音のレベル調整も行えます。

マイクのミュート

通話中にマイクをミュートするには、リモートコントロールか電話、またはマイクの  ボタンを押します。電話の赤い LED は、マイクがミュートされていることを示します。また、こちら側の PIP にミュートアイコン  も表示されます。 ボタンをもう一度押すと、マイクが有効になります。電話の青い LED は、マイクがオンになっていることを示します。

音質の管理

システムは、通信速度やリモートシステムの機能を基に、最適な音声アルゴリズムを自動的に選択します。他のシステムと通話するときの音声品質に問題がある場合は、システム管理者にお問い合わせください。

ビデオの管理



ディスプレイに表示される相手側のビデオ画像のレイアウトを管理したり、通話中にこちら側や相手側のカメラを操作したりすることができます。


相手側のビデオレイアウトを管理

デフォルトで、通話中に接続しているすべてのロケーションのビデオ画像がディスプレイに表示されます。**LifeSize Room** では、ビデオ通話中に最後のスピーカーのビデオ画像のみを表示するよう設定することができます。設定は【ユーザー設定】:【外観】の【多地点通話のレイアウト】の【最後のスピーカー】から行います。

相手側のカメラの操作

カメラが有効になっている場合は、ビデオ通話中に相手のカメラを操作することができます。相手側のカメラ操作は、通話が進行中で、相手側が **Annex Q** をサポートしている場合にのみ可能です。こちら側のカメラを操作するのと同じ方法で、相手側のカメラもコントロールできます。11 ページの「カメラの操作」を参照してください。


ビデオ通話中は、操作中のカメラの入力ウィンドウにカメラアイコンが表示されます。こちら側の PIP ウィンドウに表示されるオレンジのカメラアイコン  は、主入力（こちら側）のカメラを操作していることを示します。相手側の PIP ウィンドウに表示される青いカメラのアイコン  は、相手側のカメラを操作していることを示します。

通話中に相手側のカメラを操作するよう選択するには、リモートコントロールの【相手側】ボタンを押します。通話中に、1 番目の相手側 PIP に青いカメラアイコンが表示されるようになります。ビデオ会議の参加者が複数接続している場合は、【通話】  ボタンを押すと、カメラを操作する相手側を選択できます。青いカメラのアイコンは次のビデオ会議参加者の PIP へ移動します。カメラ操作する相手側を確定するには、【相手側】ボタンをもう一度押します。

通話中にカメラのプリセットを使用する

通話中にカメラのプリセットを使用するには、次の手順に従います。

注： 通話中にカメラのプリセットを使用するには、事前設定が必要です。通話の前にこちら側のカメラのプリセットを設定する方法については、12 ページの「カメラプリセットの設定」を参照してください。または、【通話マネージャ】の【プリセット】と操作するカメラを選択しておく、通話中にプリセットを設定することができます。

1. 任意のビデオ画面から、リモート コントロールの **[OK]** キーを押します。
【通話マネージャ】ダイアログが表示されます。
2. 矢印キーを使用して【プリセット】を選択し、 キーを押して【通話マネージャ】を閉じます。

ユーザー インターフェイスのナビゲーション バーにある数字キー アイコンの横に【プリセット】という文字が表示されます。

注： 通話中にプリセットを使用する場合は、リモート コントロールを使用してください。

3. プリセットを使用するには、使用するプリセットを表すリモート コントロールの数字キーを押します。プリセット **x** (**x**はプリセットに関連付けられた数字キー) が画面に表示されます。

通話に参加している相手側のカメラ プリセットを設定した場合は、プリセットは相手側のカメラに対してのみ使用できます。21 ページの「相手側のカメラの操作」を参照してください。

注： 数字キーをプリセットとして使用できるのは、通話画面にいる場合のみに限られます。

ディスプレイの管理

システムに接続されたビデオ入力をディスプレイに表示することができます。



入力を選択

ディスプレイに表示する新規のビデオ入力を選択するには、次の手順に従います。

1. リモート コントロールで【こちら側】ボタンを押します（または、PIP ウィンドウをナビゲートして **[OK]** を押し、主入力のフルスクリーンを有効にします）。


-
2. **[こちら側]** ボタンをもう一度押すか、 ボタンを押して、利用可能な入力ソースを示す**[主入力]**の選択ダイアログを表示します。

デフォルトの主入力は、高精度カメラです（デフォルトで、「HD カメラ 1」）。

3. **[OK]** を押してデフォルトを受け入れるか、使用する入力を選択して **[OK]** を押し、デフォルト値を変更します。
4.  ボタンを押し、利用可能な入力ソースを示す**[副入力]** 選択ダイアログを開きます。
デフォルトの副入力は、**VGA** 入力です（デフォルトで、「PC」）。
5. **[OK]** を押してデフォルトを受け入れるか、使用する入力を選択して **[OK]** を押し、デフォルト値を変更します。
6.  ボタンを押して、メイン画面に戻り、電話をかけます。


LifeSize Room のデュアル ディスプレイ 構成

LifeSize Room を 2 台のモニターで使用している場合、**[ユーザー設定] : [外観]** の**[セカンダリ ディスプレイのレイアウト]** で、2 台目のモニターに表示したい入力タイプの設定を変更しなければならない場合があります。セカンダリ ディスプレイで表示する入力タイプは次の手順で選択します。

- **VGA** 入力がある場合は、**[VGA 入力]** のデフォルト設定はセカンダリ ディスプレイに **VGA** 入力のみを表示します。**VGA** 入力は、LifeSize コーデックの **VGA** 入力  に接続されたデバイスに搭載されています。通常、接続されたデバイスとはノートブックコンピュータまたは **PC** を指します。
- 通話でプレゼンテーションを送受信する場合は、**[プレゼンテーション + VGA 入力]** を選択して、プレゼンテーションを表示します（ローカルおよびリモート）。通話中でない場合は、**VGA** 入力はディスプレイに表示されます。
- 次の内容を表示するには、**[通話 + プレゼンテーション + VGA 入力]** を選択します。
 - ビデオ通話からのビデオ画像
 - プレゼンテーションを送受信する通話のプレゼンテーション（ローカルおよびリモート）
 - 通話にない場合は **VGA** 入力
- **[同時通話 + VGA 入力]** を選択すると、ディスプレイ 2 にディスプレイ 1 と同じ出力レイアウトを表示できます。

プレゼンテーションの開始


LifeSize システムでは、メイン ビデオを表示しながらプレゼンテーションや PC のデータを共有するための H.239 がサポートされています。これにより、プレゼンテーション発表者とコンテンツをライブで同時に見ることができます。LifeSize では LifeSize Room 用に設定されたデュアルディスプレイ構成を使用することをお勧めします。【ユーザー設定】:【外観】の【セカンダリ ディスプレイのレイアウト】を変更することで、セカンダリ ディスプレイの入力レイアウトのタイプを指定することができます。詳しくは、22 ページの「ディスプレイの管理」を参照してください。


システム管理者は、LifeSize システムでプレゼンテーションを無効または有効にできます。デフォルトで、プレゼンテーションは有効に設定されています。通話中プレゼンテーションが有効になっている場合は、ユーザー インターフェイスのナビゲーションバー内に  【プレゼンテーションの開始】機能が表示されます。表示されない場合は、プレゼンテーション機能が無効になっているか、通話中のシステムがプレゼンテーション機能をサポートしていない可能性があります。


注： 四方向通話をサポートするシステムの場合は、会議をホストしているシステムのみが四方向通話を開始することができます。接続しているロケーションが少ない場合は、どのロケーションからでもプレゼンテーションを開始することができます。


プレゼンテーション機能を使用して電話をかけるには、次の手順に従います。

1. 主入力と副入力は、通話の前でも通話中でも変更できます。通話中に入力を変更するには、手順 2 に進みます。通話の前に入力を指定するには、22 ページの「入力の選択」を参照してください。
2. 電話をかけます。13 ページの「電話をかける」を参照してください。
3. 手順 1 で主入力と副入力を変更していない場合に、現在の設定を変更するには、ここで変更できます。こちら側のカメラをコントロールしていることを確認し、【こちら側】を押して【主入力】を選択し、もう一度【こちら側】を押して【副入力】を選択します。【こちら側】をさらにもう一度押して、画面から入力選択を削除します。

通話中にコントロールする相手側のカメラを選択するには、【相手側】ボタンを押して、最後にコントロールした相手側のカメラを選択します。ビデオ会議の参加者が複数接続している場合は、【通話】  ボタンを押すと、カメラを操作したい次の相手側を選択できます。【相手側】ボタンをもう一度押して、この参加者側のカメラを選択します。

-
4.  ボタンを押して、プレゼンテーションを開始します。


注： システムでプレゼンテーション機能が無効になっている場合や、通話中のシステムが H.239 をサポートしていない場合は、2 番目のメディア チャンネルは確立されず、ナビゲーションバーに  【プレゼンテーションの開始】機能は表示されません。この場合は、主入力として PC（またはその他の入力）を選択するとプレゼンテーションを表示できます。

5.  ボタンをもう一度押して、プレゼンテーションを停止します。


注： 通話中に、入力をいつでも変更できます。相手側もプレゼンテーションを開始できますが、こちら側のプレゼンテーションは中断されます。

通話統計の表示

通話に関する統計情報を表示するには、次の手順に従います。

1. 通話中に、 ボタンを押します。
2. 進行中の通話に関する音声およびビデオ統計が画面に表示されます。

通話の統計には、帯域幅、パケット レート、ジッター、パケット 損失、解像度などの情報が含まれます。

3. 統計を非表示にするには、 ボタンをもう一度押します。統計は 5 秒ごとに自動的に更新され、5 分間後に非表示になります。

通話の終了

通話は次のいずれかから切断できます。

- 【通話マネージャ】ダイアログ
- 【再ダイヤル】リスト
- LifeSize Phone

通話マネージャから通話を終了するには

【通話マネージャ】ダイアログから通話を終了するには、次の手順に従います。


1. 通話中に **[OK]** を押します。
【通話マネージャ】ダイアログが表示されます。

2. 次のいずれかを選択します。

- 通話 1 つを終了するには、**[OK]** をもう一度します。
- 多地点通話で参加者との通話を終了するには、リモート コントロールの矢印キーを使って、通話を終了する相手の ID に移動し、**[OK]** を押します。
- 多地点通話で全員との通話を終了するには、リモート コントロールで左矢印キーを押し、**[すべての通話を切断する]** ボタンを選択します。**[OK]** を押して、全員との接続を切断します。
- 音声通話の相手またはビデオ通話の相手のみを切断するには、リモート コントロールで矢印キーを使ってナビゲートし、**[音声の切断]** または **[ビデオの切断]** ボタンを選択します。**[OK]** を押して、音声またはビデオ通話の相手全員との接続を切断します。このオプションは、音声およびビデオ通話が両方進行中である場合にのみ表示されます。

再ダイヤルのリストから電話を終了する

[再ダイヤル] リストから通話を終了するには、次の手順に従います。


1. 通話中、 ボタンを押してメイン画面に戻ります。
2. **[再ダイヤル]** リストで、切断する通話を選択します。**[再ダイヤル]** リストにある現在進行中の音声またはビデオ電話番号の左に、オレンジの LED インジケータが表示されます。
3. **[OK]** を押します。

LifeSize Phone から通話の終了

LifeSize Phone からの通話を切断するには、有効になっている **[音声]** または **[ビデオ]** ボタンを押します。


VGA 入力をローカルで表示するには

LifeSize システムがシングル ディスプレイを使用していて、システムがアイドル状態または音声通話中の場合で **VGA** 入力に接続されたデバイスからのデータをローカルで表示する場合は、**[ユーザー設定] : [外観]** を開きます。**[スクリーンセーバー]** 設定を **[VGA 入力]** に設定します。

次の場合に、メイン画面のナビゲーション バーに  キーが表示されます。

- システムがアイドル状態の場合（または音声通話中で音声画面にいる場合）
- **VGA** 入力に接続されたデバイスがシステムにデータを送信中の場合

-
- **[スクリーンセーバー]**設定が **[VGA 入力]**に設定されている場合

 キーを押すと **VGA** 入力画面が表示されます。任意のキーを押すと、メイン画面に戻ります。


システムがアイドル状態の場合は、**VGA** 入力からのデータがディスプレイに表示されます。**VGA** に接続されたデバイスがシステムヘデータを送信していない場合は、ディスプレイに黒い画面が表示されます。

再ダイヤル リストの管理

[再ダイヤル] リストは次の方法で管理できます。


- エントリをロックして、リストから自動的に削除されるのを防ぐ。
- ロックされたエントリのロック解除。
- エントリの削除。
- エントリをローカルのディレクトリに追加。
- エントリ最大表示件数の変更。

再ダイヤルリストでのエントリのロックまたはロック解除

[再ダイヤル] リストでエントリをロックまたはロック解除できます。エントリをロックしておくと、リストが最大表示件数に達した場合でも削除されるのを防ぐことができます。ロックされたことを意味する  マークがリストの下のロック済みエントリ番号と帯域幅の横に表示されます。

注： エントリをロックしても、リストから手動で削除するのを防ぐことはできません。
28 ページの「再ダイヤルリストからエントリを削除」を参照してください。

[再ダイヤル] リストのエントリをロックまたはロック解除するには、次の手順に従います。

1. リモート コントロールの矢印キーを使用して、ロックまたはロック解除するエントリを選択します。
2.  キーを押します。
3. メニューから **[ロック]** (エントリがすでにロックされている場合は **[ロック解除]**) を選択し、**[OK]** を押します。

再ダイヤルリストからエントリを削除

【再ダイヤル】リストからエントリを削除するには、次の手順に従います。

1. リモート コントロールの矢印キーを使用して、削除するエントリを選択します。
2. **#** キーを押します。
3. メニューから【削除】ボタンを選択し、**[OK]**を押します。

再ダイヤル リスト内のエントリをディレクトリに追加

【再ダイヤル】リスト内のエントリを、ローカルのディレクトリに追加することができます。

【再ダイヤル】リストからディレクトリにエントリを追加するには、次の手順に従います。






1. リモート コントロールの矢印キーを使用して、ディレクトリに追加するエントリを選択します。
2. **#** キーを押します。
3. メニューから【保存】ボタンを選択し、**[OK]**を押します。
4. もう一度**[OK]**を押して、確認ダイアログを閉じます。

ディレクトリの管理

エントリを追加、削除、変更してローカルおよび会議ディレクトリを管理することができます。

ローカルまたは会議ディレクトリへのエントリの追加

ローカル ディレクトリには最大 **1000** 件、会議ディレクトリには最高 **100** 件までエントリを作成することができます。ローカルまたは会議ディレクトリにエントリを追加するには、次の手順に従います。

-
1. メイン画面で  ボタンを押し、ディレクトリを開きます。
 2. 矢印キーを使用して、**[ローカル]**または**[会議]**ディレクトリを選択します。
 3. **[新規エントリの追加]** ボタンを選択し、**[OK]** を押します。
 4. 次のいずれかを実行します。
 - a. ローカルのディレクトリにエントリを追加するには、矢印キーを使用して **[新規ディレクトリ エントリ]** のフィールドを選択します。**[OK]** を押して選択したフィールドに値を入力します。システム名、ビデオおよび音声番号、IP アドレスまたは ISDN 番号を入力します。必要な場合は、 ボタンを押し、テキストフィールドのテキスト入力方法を変更するか、 ボタンを押し、キーボードを表示します。値を入力したら、キーボード（値を入力するのに使用した場合）を非表示にし、**[OK]** を押し、フィールドを閉じます。
 - b. 会議ディレクトリにエントリを追加するには、**[会議名]** を選択して **[OK]** を押します。会議の名前を入力します。必要な場合は、 ボタンを押し、テキストフィールドのテキスト入力方法を変更するか、 ボタンを押し、キーボードを表示します。値を入力したら、キーボード（値を入力するのに使用した場合）を非表示にし、**[OK]** を押し、フィールドを閉じます。

会議に追加したいエントリを含むディレクトリを選択します（**[ローカル]**、**[企業]** または **[両方]**）。

[利用可能なエントリ] 欄でエントリを選択して **[参加者]** 欄に追加し、**[OK]** を押します。

エントリに番号が複数含まれている場合は、各番号を含むサブメニューが表示されます。ダイヤルしたい番号をサブメニューから選択し、**[OK]** をクリックします。**[利用可能なエントリ]** 欄から会議エントリに追加する参加者のエントリを選択します。



-
- ローカルまたは会議ディレクトリの階層があらかじめ定義されている場合は、【階層】フィールドでエントリを挿入する階層内の位置へのパスを入力します。階層は、場所または部門別に定義できます。【新規ディレクトリ入力】画面を完了する前に、どのグループにエントリを追加するかについて、事前に定義した階層の完全なパス（コマンドで区切る）を定義する必要があります。【階層】フィールドを空のまま残すと、階層の一番上（定義されている場合）、またはアルファベット順に新しいエントリが挿入されます。

たとえば、システムの管理者が場所別に階層を定義したとして、ホームオフィスがトップの階層、セールス オフィス 1 とセールス オフィス 2 がその下のレベルにあるとします。セールス オフィス 2 にエントリを追加するための【階層】の値はホームオフィス、セールスオフィス2となります。

- フィールド入力が完了したら、次の手順のいずれかを実行します。
 - ローカルディレクトリにエントリを追加するには、【エントリの追加】を選択し、**[OK]**を押します。
 - 会議ディレクトリにエントリを追加するには、【会議の追加】を選択し、**[OK]**を押します。



企業ディレクトリからローカル ディレクトリへエントリをコピー

企業ディレクトリからローカル ディレクトリへエントリをコピーするには、次の手順に従います。

- メイン画面で  ボタンを押し、ディレクトリを開きます。
- 【企業】ディレクトリを選択します。
- ローカル ディレクトリへコピーするエントリを選択します。
-  キーを押します。
- 【ローカルへコピー】を選択し、**[OK]**を押します。
- [OK]**を押して、エントリを保存します。


ローカルまたは会議ディレクトリからエントリを削除


ローカルまたは会議ディレクトリからエントリを削除するには、次の手順に従います。

1. メイン画面で  ボタンを押し、ディレクトリを開きます。
2. **【ローカル】** または **【会議】** ディレクトリを選択します。
3. 削除するエントリを選択します。
4.  キーを押します。
5. **【削除】** を選択し、**【OK】** を押します。
6. **【はい】** を選択し、**【OK】** を押します。

ローカルまたは会議ディレクトリのエントリを編集

ローカルまたは会議ディレクトリのエントリを編集するには、次の手順に従います。

1. 編集するエントリを選択します。
2.  キーを押します。
3. メニューから **【編集】** を選択し、**【OK】** を押します。
4. **【ディレクトリ エントリの編集】** または **【会議エントリの編集】** ダイアログで値を変更します。
 - a. **【OK】** を押して、修正するフィールドを選択します。

注： 必要ならば、 ボタンを押し、テキスト フィールドのテキスト入力モードを変更します。
 - b. 変更が終わったら、**【OK】** を押して、フィールドを閉じます。
5. 矢印キーを使って **【変更の保存】** を選択し、**【OK】** を押します。

トラブルシューティング

次に、LifeSize システムで発生する可能性のある状態と、その原因および解決法について説明します。

問題が発生した場合は、まず電話を目で見て調べます。システムが水や熱にさらされていないこと、物理的な損傷がないことを確認します。

接続の不備やゆるんだケーブルは、ハードウェア機器で最も多く見られる問題です。システムの問題を確認する場合は、まず、すべての外部コントロールとケーブル接続をチェックしてください。正しくしっかりと接続されていること、ケーブルを妨害するものがないことを確認します。正しいケーブル接続については、システムの管理者へ連絡してください。

部屋の明るさの調整

部屋の明るさや環境の背景色を変えることで、最高の画像を得やすくなります。LifeSize システムを使用する標準の会議室での最適な明るさは、**300 ~ 500 ルクス**です。お使いの環境に必要な明るさについて詳しくは、システムの管理者または LifeSize の代理店にお問い合わせください。

LifeSize システムが付属のカメラに不十分な照明だと判断した場合は、低照明または超低照明状態を示すインジケータがメイン画面のステータスバーに表示されます。照明が暗いまたは照明が非常に暗い状態を示すインジケータについては、**7 ページ**の「メイン画面」を参照してください。部屋が暗すぎる場合は、ランプを置くなど照明を加えてください。シェードされている光源からの間接光や白っぽい壁からの反射光は、良い結果をもたらします。

次のような照明は避けてください。

- 対象物や背景、カメラレンズへの直射日光（きついコントラストの原因となります）
- 対象物やカメラレンズの直接光
- 色付きの照明
- 横からのきつい光や上からの強い光

また、カメラの明るさを調整することによって薄暗い画面を改善することもできます。**33 ページ**の「カメラの明るさの調整」を参照してください。

カメラの問題

リモート コントロールの赤外線（IR）センサーは、カメラの前部にあります。リモート コントロールの信号が届く範囲は、**10 メートル**です。システムが応答しない場合は、まず、カメラが正しい位置にあること、リモート コントロールをカメラの **10 メートル**以内で使用していることを確認してください。

カメラのパン、チルト、ズームができない場合は、リモートコントロールに良好な状態の単四電池が収納されていることを確認してください。また、センサーとカメラ前部近くに障害物がないことも確認します。

カメラからビデオが表示されない場合は、カメラがカメラケーブルで LifeSize システムの正しいカメラ入力に接続されていることを確認してください。接続に問題がない場合は、システム管理者へ連絡してください。また、22 ページの「入力の選択」に説明されているように、主入力が高精度カメラに設定されていることも確認します。

カメラ前部の青い LED が、電源がオンになっていることを示すために点灯していることを確認します。カメラの電源が入っているかどうかを確認する必要がある場合は、システムを再起動してみます。システムを再起動するには、36 ページの「電源および接続性の問題」を参照してください。

カメラの明るさの調整

カメラの明るさは、カメラのレンズを通して受信する光の量を意味します。画面が薄暗い場合は、室内の照明を調整したり、カメラの明るさを調整したりして画面の明るさを改善してください。【ユーザー設定】:【診断】:【高精度 HD カメラ】の【HD カメラの照明状態】インジケータは、使用するカメラにとっての室内の照明状態を示します。状態が【最高照明】以外の場合は、室内の照明やカメラの明るさを調整してください。HD カメラの明るさを調整するには、【ユーザー設定】:【診断】:【高精度 HD カメラ】で【高精度 HD カメラの明るさ】を設定してください。

カメラのホワイトバランスの調整


カメラのホワイトバランスは、カメラが全ての色の混合である白をどのように参照するかを意味します。ホワイトバランスは、ビデオの色調がアンバランスな場合に調整します。ホワイトバランスは、光源のタイプによって影響を受けます。カメラのホワイトバランスを調整するには、【ユーザー設定】:【診断】:【高精度 HD カメラ】の【高精度 HD カメラのホワイトバランス】を設定します。

カメラのアンチフリッカー設定の調整

50 Hz の電源を使用する照明は、カメラでキャプチャやシステムへの送信を行う際にフリッカー（ちらつき）が生じることがあります。照明に 50 Hz の電源を使用していて、システムで表示されるビデオにフリッカーが見られる場合は、【ユーザー設定】:【診断】:【高精度 HD カメラ】:【アンチフリッカー】で【50 Hz】オプションを選択します。デフォルトで【自動】に設定されています。

日光を想定した室内で使用するよう設計されている一部のカメラの露出設定では、フリッカーが生じる場合があります。フリッカーを取り除くには、【ユーザー設定】:【診断】:【高精度 HD カメラ】にある【高精度 HD カメラの明るさ】の値を増やしてみてください。

VGA 入力の問題

LifeSize コーデックの VGA 入力に接続されたデバイスからの、VGA 入力  の水平方向と垂直方向の位置、明るさとコントラストを調整できます。通常は、VGA 入力デバイスはプレゼンテーション中にデータを送信（たとえば、スプレッドシートまたはスライドショーなど）するラップトップまたは PC である場合がほとんどです。また、クロック周波数の粗調整または微調整を行ったり、ディスプレイに画像が収まるようにスケールの割合を調整することもできます。VGA 入力設定を調整するには、**[ユーザー設定] : [診断] : [VGA 入力]** を開きます。

ディスプレイの問題

以下の問題は、ユーザーインタフェイスまたはディスプレイに関係しています。

ディスプレイの故障

データがディスプレイに表示されない場合は、ディスプレイにケーブルが正しく接続されており、ケーブルがコーデックの背面パネルにあるディスプレイ 1 出力に接続されていることも確認します。正しい入力を選択していることも確認してください。詳しくは、22 ページの「入力の選択」を参照してください。

ビデオ画像とディスプレイが白っぽく見えたり、明るすぎたりする場合は、HDTV の入力設定を点検し、HDTV が適切な解像度で表示されていることを確認してください。一部の HDTV（特にプラズマディスプレイ）では、HDTV 管理インターフェイスから入力デバイスのネイティブ解像度を設定できるようになっています。

LifeSize Room で 2 台目のディスプレイを使用していて、何も表示されない、または 1 つの入力からしかデータが表示されない場合は、サポートされていないディスプレイを使っているか、2 つ目の入力がオフになっている場合があります。**[ユーザー設定] : [外観] : [セカンダリディスプレイのレイアウト]** この設定が無効になっていて変更ができない場合は、お使いのディスプレイではサポートされていません。それ以外の場合は、セカンダリディスプレイの VGA 入力が接続されていることを確認してください。

低画質ディスプレイ

電話ディスプレイの表示状態が悪い、またはデータが読み取れない場合は、**[ユーザー設定] : [外観] : [LCD コントラスト]** 設定を調整します。LifeSize では、デフォルト設定 (6) を使用することをお勧めします。

ディスプレイの色が正しくない場合は、ディスプレイに RGB ケーブルが正しく接続されていることを確認してください。

入力問題

すべてのビデオ入力に何も接続されていない場合は、入力を選択するダイアログに、デフォルトで黒い画像が表示されます。必要な入力を接続するか、**22** ページの「入力の選択」に説明されているように、異なる入力を選択してください。



相手側のビデオが見にくい場合

通話中、**LifeSize** システムは、ビデオ ソースやリモートシステムの機能を基に、最適なビデオ アルゴリズムを自動的に選択します。動きがおかしい、またはビデオ通話中に相手側の画像が傾いて見える場合は、システム管理者へ連絡してください。

音声問題

次に、音質に関する問題について説明します。

発信音が聞こえない

電話をかけるために  または  キーを押した後で発信音が聞こえない場合は、ライン出力が正しく接続されていることを確認します。

アナログ電話線接続が利用できないと、発信音は聞こえません。**PSTN** に接続している場合は、アナログ電話線が正しく接続されていて、アクティブな電話線ジャックに接続されていることを確認してください。

音質の問題

LifeSize Phone の **LED** は、受信コールがあることを示す場合に青く点滅します。受信コールがあっても電話の呼び出し音が聞こえない場合は、音量キーで音量を調整してみてください。それでもまだ音質に問題がある場合は、**[ユーザー設定] : [音声]** メニューで **[呼出音の音量]** 設定を調整します。

反響を起こす部屋では、相手側からの受信音声がくぐもる場合があります。音声の受信状態が悪い場合は、部屋に吸音処理を施し、電話やマイク近づいて話します。

音質の低下は、不良なマイク、電話のゴミや汚れなどから発生することもあります。電話のクリーニングには、液体またはエアゾール式のクリーナーは使わないでください。必要に応じて、柔らかい布を水で湿らせて電話の表面を拭いてください。

外付けのマイクを使用している場合は、マイクをラウドスピーカーから **1.5m (5 フィート)** 以内で使用しないでください。また、外付けのマイクのゲインの設定値が高すぎる場合にも、歪みやエコーが発生する可能性があります。

音声の歪み

通話の両サイドで、ラウドスピーカーの前に障害物がないこと、またはスピーカーが損傷していないことを確認します。電話の上に物を乗せないでください。両側でミュートされていないことを確認します。音声出力ケーブルがディスプレイに正しく接続されていて、外付けスピーカー システムの電源が入り、正しく接続されていることを確認してください。外付けスピーカー システムに独自の音量コントロールがある場合は、**LifeSize** の音声出力で音量を最大（7 から 10 の範囲）にし、最適な音量は外付けスピーカー システムの音量コントロールで調整します。

電源および接続性の問題

通話が正しく行えない場合は、正しい電話番号をダイヤルしていることと、相手側の機器の電源がオンになっていて利用可能であることを確認してください。またネットワークの準備ができ、利用可能であることも確認してください。ネットワークのステータスは、ステータス バーに常に表示されます。**LifeSize** システムがローカルのネットワークに接続されている場合は、ネットワークの状態を示す緑のアイコンが表示されます。黄色または赤のネットワークの状態アイコンは、ネットワーク接続に問題があることを示します。ネットワーク ステータス アイコンの図と説明を見るには、7 ページの「メイン画面」を参照してください。

リモート コントロールからのコマンドに反応しない場合、システムを再起動しなければならない可能性があります。システムを再起動するには、**[ユーザー設定] : [診断] : [システムの再起動]** を選択します。